

内閣総理大臣 安倍晋三様
防衛大臣 中谷 元様
衆議院議長 大島理森様

命を軽んじ尊厳を奪う安保関連法案成立に反対する要望書

国家によって戦争が推進される法律が、世論の圧倒的反対の声を無視して衆議院を通過しようとしています。

あってはならないことです。強く、反対します。

先の戦争の傷もまだ癒されていないのです。国家によって戦争がなされ、多くの犠牲者がでました。命を家族を財産を将来の希望を奪われた者、身体、こころに傷を負ったもの。未だ涙を流し続けています。「人間が人間でなくなった」、と、経験者は語ります。「軍隊は住民を守らない」と語ります。軍隊の行くところ、まず、軍人のための「慰安所」がつくられ、国内外の女性が慰みものとされました。戦場においては、性的暴力を受け、戦争が止むや、戦勝国の戦利品のように弱いものが性的暴力の対象とされました。統計的な数字が出ていないものの、多くのものが殺傷され、生き残ったものは泣き寝入りさせられました。

武力による解決＝戦争が何も生み出さないことを学習したのです。再び同じ過ちを繰り返してはいけません。無残に亡くなれたかたがたの犠牲を無にしたくないのです。再び同じ過ちを繰り返さないために日本国憲法は戦争の放棄を宣言し、この憲法に反する法律の無効を定めたのです。沖縄では、戦争につながる新基地建設を反対し、人びとが非暴力抵抗で意思表示の座り込みをしています。戦争の記憶が座り込みを存続させているのです。19年目に入ります。

戦争が何も生み出さないものであること。命と反対の営みであること。人命を大切にしない。人権を大切にしない。性差別はじめ、あらゆる差別そのものなのです。犠牲になるのは、一番弱い者たちなのです。この法律を作り、通そうとする者、決して戦場に行くことのない、と対極にいる者なのです。わたしたち、ひとりひとりに与えられた尊厳をなし崩しにしようとしています。

国家による殺人（戦争）を肯定するわけにはいきません。反対、また訴え続けている小さい者の声をないがしろにしないでください。

命を軽んじ、弱いものたちの尊厳を奪う安保関連法案の成立に反対の意を重ねてここに記します。

2015年7月14日

宗教法人 日本バプテスト連盟
性差別問題特別委員会